

1 自己評価(なごみ)及び外部評価結果(全体)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社 メデカ ジャパン		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風		
所在地	〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節を感じていただけるような四季折々の行事を多く提供させていただいている。又、一人ひとりの力を活かし、皆で協力し合い生活をしていただいています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年2月24日		

<p>やちよ台ケアセンターそよ風は1階に短期入所生活介護施設があり、2階に2ユニットのグループホームがある。同じフロアにあるユニットの利点で入居者同士の行き来がさかんで、囲碁で交流している入居者もいる。また、リビングの外には広いバルコニーがあり、天気の良い日はそこでカフェが開かれお茶を楽しむ。ケアサービスで力を入れている事は自立を促すことであり、介護度の高い入居者も多い中、こまめなトイレ誘導により、おむつからリハビリパンツに移行した人がある。また、食事の場面でも盛り付けを入居者が行う等している。今後地域に根差したホームとして、成長が期待される。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(なごみユニット) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットミーティングで理念を決め、それに基づいてケアが出来るよう努めている。又朝礼後は皆で事業所理念を唱和している。	法人の理念とは別に各ユニットの職員が意見を出し合い、管理者とともに作り上げたユニット毎の理念がある。ミーティングでは理念がケアに反映されているか確認をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に行き、地域の方々に挨拶をする等、交流を図っている。	併設されている短期入所生活介護施設と合同で行った納涼祭に職員の知人も参加した。また、数多くの芸能ボランティアのほか、週1回の傾聴ボランティアの受け入れも行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の学校との交流を計画していたがインフルエンザの流行により中止となった。今後又計画し実施していく予定でいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故報告等を行い、御家族様、介護相談員の方々からの意見も拜聴し、サービス提供につなげさせて頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、参加者は入居者家族や地域包括支援センター職員、ホーム職員の参加で行われている。会議ではホームの現状報告、外部評価の説明、参加者の意見交換などを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2度入居状況を伝えている他、実地指導に入っていたいただいたのみなので、今後は事業所の取り組みを伝えていき、協力関係を築けるようにして行く予定。	市の介護保険課には定期的にホームの現状報告を行っている。介護相談員も月1回来訪し入居者の話を聞いている。	開設1年半の新設ホームであり、ホーム側から行政に課題を投げかけ理解や支援を得るなど、積極的な働き掛けを行い、協力関係を深めることを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会に参加し、報告書を全職員回覧し、日々のケアの中でも不用な鍵の施錠等をなくすようにしている。	管理者は身体拘束廃止の研修に参加するなど、拘束による弊害は理解しているが、全職員への周知が不十分で1つのユニットは入り口の扉に鍵がかけられている。	研修で得た知識を全職員で共有すると同時に、家族や近隣住民の理解と協力を得るなどし、ホームとして施錠をしない取り組みの実現が期待される。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター内で勉強会を行い、報告書を提出してもらい、支援内容の見直しを行い、防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣ユニットに成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる為、資料を閲覧し学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様が納得して頂ける様な細かい説明を行わせて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、御家族様に意見を伺い、日々の面会時にも御声掛けさせて頂いている。又、月に1度介護相談員に來所して頂いている。	運営推進会議で家族の意見を聞いている。また、面会時や通院の送迎などで家族が來所した際には声掛けをし、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにおけるミーティングや施設全体の会議を定期的に行っている。又、各職員と定期的に面談の場を設けている。	月1回の全体会議やユニット毎に行われるミーティングで意見を聞いている。しかし、新規採用職員の離職率が高く、ホームとしても課題だと考えている。	新規採用職員の定着のためにも、職員の率直な意見を聞く場を増やし運営に活かすことが望まれる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員との面談を実施し、現在の評価と課題を本人と話し合い又、現在の不安や不満を吸い上げる機会を設けている。雇用期間の更新時には実績により給与のベースアップを図り、モチベーションの向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはベテラン職員がフォローに付き当施設独自のプログラムにより、無理なく業務の修得に努め、分からない点はその場で解決する仕組みで行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他施設の管理者などと情報を共有する機会を月1回で設けているが、社外の勉強会や研修は現状不足しており、個々人の取り組みに一任している。		

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に家庭訪問を行い、御本人の話を十分に伺い、実際にセンターを見学して頂く等している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>センターを見学して頂き、現在の状況を詳しく伺い事業所としてどのような対応が行えるか話し合いを行っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状態の把握に努め、必要に応じて他サービスの情報提供を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>教えていただく場面を多く持ち、人の役に立っているという実感を得て頂き、共に支え合える環境を作っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>生活の状況を報告させて頂き、共に本人を支えているという意識を持って頂けるようにしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方が来所して下さった際には何時でもお立ち寄り頂けるよう、声を掛けさせて頂いている。</p>	<p>調査当日、家族の面会が両ユニットで見られた。どちらの入居者も家族と共に過ごすことに嬉しそうなお返事が伺えた。また、入居者の知人がホームを訪れ、談笑して帰ることもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日によって状態も異なる為、その時の状況に応じ職員が間に入り対応している。</p>		

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在退去された方との連絡は取れていない。今後は必要に応じて相談、支援に努めて参ります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言葉を傾聴し、表情を読み取り、御本人の思いをくみとる様努めている。	普段の会話やお茶の時間等を活用して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は毎日の状態の見守り等を基本とし、不穏な行動やいつもと違う様子について理解が出来るように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人、家族から情報をいただき、入居後も本人、家族との会話で把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態を把握し、出来る事を行って頂き、その日の状態に合わせての対応に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題があればミーティングで話し合い計画に反映させている。今後は必要に応じて家族の方にも参加して頂けるようにしていきたい。	入居者主体の介護計画にするため、居室担当者等の状況報告をもとに、家族に相談しながら現状に即した計画の見直しをしている。退院時には医師の方針を聞くため家族と出席させてもらうようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に記入し、情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援を行っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のホームセンターへ買い物に行ったり、美容院を利用したりしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により往診を受けられる方、又は御家族様対応にてかかりつけ医に受診している方もいる。その際には生活状況をお持ち頂き、状態の変化を報告している。	入居者の約3割は以前からのかかりつけ医がいて、家族の協力も得て継続的な受診の支援をしている。希望によって訪問診療や定期的な往診も行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼時、又は特変時にはセンター看護師に報告、助言を受けている。その後も経過報告し、その都度適切なアドバイスを頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、出来る限りお見舞いに行き、退院前には退院後のケアについてDrより御家族様と管理者が話を聞き、退院後も安心して暮らして頂けるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	隣ユニットでターミナルケアを行った際、グループホームで出来る事を家族に説明し、職員にも今後の対応について何度かミーティングを行い、ターミナルについて勉強会を行った。	開設間もなく入居者の重度化が認められた時、ターミナルケアについて職員間でミーティングや勉強会を行った経緯がある。しかしその後の体制は整えられていない。	入居者家族の意向を踏まえながら指針を作り、書類の整備を含め、体制を整えることが重要であると思われる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの際、短時間ではあるが勉強できる時間を作っている。今後は消防署の研修等にも積極的に参加して行けるようにしていきたいと思っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、夜間を想定した訓練では利用者様も混じえて訓練を実施、又防災の取り組み、知識についての勉強会を行いました。	年2回、併設のショートステイ施設と合同で消防訓練を行っている。入居者と一緒に夜間を想定した自主訓練等も行われているが、災害時の援助体制に対する仕組みはない。	夜間の災害援助には近隣との協力体制が不可欠であるため、自治会等を通じた安全安心の仕組みを作ることが望まれる。

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行う様、職員全員で気をつけ対応している。	入居者の誇りや尊厳を損なわない対応を職員間で共有している。トイレ誘導等も小声で確認をしたり自己決定し易い対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御茶の時間、利用者様にメニューを見て頂き、御自身で飲みたい物を決めて頂いております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に合わせ、買い物へ出掛けたりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にはよそ行きに着替えおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。又、食後、食べこぼし等で衣類を汚してしまった時には、さりげなくお声掛けさせて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲で調理や片付けを手伝って頂き、職員は利用者様と一緒にテーブルを囲んで楽しく食事が取れるようにしている。	入居者と職員は、配達された食材の検品や食事の盛り付け、配膳、あとかたづけ、食器洗い等を一緒に行っている。食事のメニューを相談しながら変更することもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みや嚥む力がない方には食べ易いように刻んで提供したり、食が進まない方には形を変えて提供するなどしている。毎食の食事量、水分量は一人一人チェックしております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。義歯の方は就寝前洗浄剤を使用している。		

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄チェック表を記録し、尿意のない方にも時間を見計らって誘導をさせて頂いている。	時間やタイミングを見て、一人ひとりに合わせて排泄支援をしている。入居時に車椅子使用でおむつだった人が、こまめにトイレ誘導した結果、リハビリパンツに移行した事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトや冷たい物を食事に取り入れスムーズな排便を心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回は入浴して頂けるよう、声掛けさせて頂いている。	湯は毎日沸かし、最低でも週3回の入浴支援を行っている。個々の意向に沿い、その都度順番を決め公平な対応に努めている。入浴しながら入居者についても、安心感を持ってもらい、入浴につながるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に応じて、日中1時間位の休憩の時間を取り入れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表を作成しており、用法、用量、効能を記入し、全職員が把握出来るようにしている。又薬が変わった時には日々の状態を細かく記すようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園の場を作り、利用者様に教えて頂きながら野菜作りを行っている。又、水やりを御自分の仕事にし毎日行って下さる様になった。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	消耗品が無くなった時などには、個別対応にて買い物へ出掛けたりしている。又、御花見には家族の方にも参加して頂き、御弁当を持って外出した。	散歩で近隣の神社に行ったり、おやつや花などを買いに行くこともある。歩行困難な入居者には道路事情を考慮し、車で現地まで行く対応をしている。春には、花見やいちご狩りの予定がある。	散歩等については、もう少し回数を増やす工夫が望まれる。

やちよ台ケアセンターそよ風 自己評価(なごみユニット) 評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時などには、その方に応じて支払いをして頂く様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いを家族に出して頂くなどしている。又、本人の希望により家族への電話も支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度には十分に配慮し、季節に応じた飾り付けを行い、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	南に面したバルコニーは広く、入居者が育てている鉢が置かれ、洗濯物を干したり、お茶を楽しむ場所にもなっている。居間、台所、トイレの配置は、入居者が混乱をきたさない様な作りとなっていて、室温も適切である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには皆様がくつろげる様、ソファを置き、又気の合った方々で将棋等楽しめる様、テーブルの配置にも工夫をさせて頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具をお持ち頂き、安心して生活出来るようにしている。又仏壇を持ち込まれている方もいらっしゃる。	居室は十分な広さがあり、ゆったりしている。どの部屋にも使い慣れた家具が持ち込まれ、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内等に手すりをつけ、安全で自立した生活が送れるよう支援している。又居室入口には顔写真を飾り、わかりやすいよう工夫している。		